

令和 7 年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-5-1-(3)
事業名	家庭教育推進事業		

■基礎情報

目的	将来を担う子どもたちの健全育成は、学校・家庭・地域及び子どもに関する関係機関が連携し、すべての教育の基である家庭教育の充実を図り発展させること。		
事務内容	・家庭教育講座 ※小学生以上を対象にした講座や親子を対象にした自然体験教室等を開催する。	・青少年問題協議会 ※会議（年 1 回） 啓発活動（年 1 回）	
現在における経過又は課題	・社会構造の変化に伴い、子育て家庭の孤立や地域の子育て力が低下しているなど、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する状況で、家庭や地域がその教育力を高めていくことが重要である。 ・住民のニーズを的確に把握し、家庭・学校・地域で子どもたちが世代間を超えた交流ができる環境づくりや、青少年の豊かな人間性、社会性を育むため、集団生活における人間関係を身につけさせる機会として、地域における自主的活動やボランティア活動を活発にしていける必要がある。 ・親子で学習できる機会の充実を図るため、自然体験教室、親子参加の講座を実施し、ふれあいまつりでは、親子がふれ合う機会を設けている。 ・青少年においては、青少年問題協議会を年 1 回開催し、青少年を取り巻く状況等を江南警察署と情報共有し、町内ショッピングセンター店舗にて啓発活動を実施している。		
令和 7 年度の目標又は改善策	・親子講座や親子がふれあいながら、ともに学習できる機会の提供など充実を図るため、講座や料理教室の事業を行う。また、町内企業が運営する美術館や博物館を訪れ、子どもたちに町内企業を知ってもらい興味を持つことができるきっかけづくりを提供する。事業実施においては、参加した方にアンケートを実施しながら、新たなニーズをつかみ、事業や開催時期などが重複しないよう、他の部局と情報を共有しながら計画する。 ・令和 5 年度から（一社）阿智村全村博物館協会と親子で参加できる自然教室を継続しており、引き続いて親子でふれあえる体験型の教室を実施していきたい。 ・親子ふれあい事業として、ふれあいまつりで、小中学校 P T A を中心に、子どもたちが学校以外の地域の中で親子がふれあう機会を作れる支援を行っていく。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第 1 章	次代を担う子ども・若者の育成					
	基本政策	第 3 節	青少年の育成					
成果指標	家庭教育指導など青少年の健全育成への満足度							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
	63.60%	65.10%	66.00%	－	－	－	59.10%	70.00%

成果指標	学校と地域や家庭との連携の満足度							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
	62.40%	65.60%	65.00%	－	－	－	60.90%	68.00%

■3年間の目標

目標					
項 目（単位）			R5実績	R6実績	R7目標

■次年度以降の予定

青少年の社会活動への参加機会の創出を行う。
親子で学べる機会を増やせるよう講座の企画を進める。

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
7	青少年問題協議会の開催
8	山村自然体験教室（阿智村）
11	親子ふれあい事業
随時	家庭教育講座の受付及び開講 ヤマザキマザック博物館 町内企業見学 （12月から3月）

■目標又は改善策に対する取組内容

家庭教育講座として、親子で参加できる講座や教室として、企画時から町にゆかりのある内容や、他の事業で関わりのある自治体や場所で調整を行い、4事業を実施した。

講座では、松江市にゆかりのある小泉八雲に関する講座や、来待ストーンミュージアムの学芸員の協力を得て、2講座を実施した。（参加人数延べ59名）

アンケートでは、「琵琶や怪談、来待石に興味があった」、「とてもよかった」と好評で、「去年も参加した」「また参加したい」との声が聞かれた。

阿智村での自然体験教室や、町にゆかりのある企業の博物館見学と、町外での親子での体験学習を実施した。（参加人数延べ44名）

関係団体の協力を得て、子ども、親子向けの事業を実施した。

生涯学習のまちづくり実行委員会

大口中学校の理科室などの特別教室にて、小中学生や親子を対象に「理科おもしろ実験講座」を始めとする13講座を実施した。（参加人数延べ160名）

小中学校のPTA

ふれあいまつり2025に出展。

- ・大口中学校PTA 千本釣り（参加人数450人）
- ・大口北小学校PTA 親子かわいい台づくり（参加組数54組）
- ・大口西小学校PTA わなげにチャレンジ（参加人数738人）
- ・大口南小学校PTA ボール投げゲーム（参加人数540人）

青少年問題協議会では、巡回パトロールを実施（ヨシヅヤ、MEGAドン・キホーテUNY、バロー）し、中学校関係者・保護司及び警察と連携して、校外巡視時に啓発チラシ・グッズを配布

■評価

講座については、募集定数を満たすことが難しいが、参加者から前向きな意見を頂いており、今後も内容を工夫し引き続き実施していく。

自然体験教室では、昨年度のアンケート「現地に行かないと体験できないことをしたい」という意見を踏まえ、自然の中で「セミ学習」等を実施することができた。今後も、実施場所である阿智村と協議をしながら、親子で参加できる事業を継続していく。

関係団体では、子どもや親子をターゲットとした講座やイベントへ出店など、多くの事業の実施ができた。今後も団体と連携しながら引き続き実施していく。

令和 7 年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-5-1-(4)
事業名	生涯学習活動推進事業		

■ 基礎情報

目的	人々が自らの意思で、生涯学習活動を進めることにより、大口町生涯学習基本構想に基づく「生涯学習のまちづくり」を目指すこと。		
事務内容	・文化振興（芸能文化事業） ・地域学校協働本部事業		・文化協会支援 ・二十歳の集い実行委員会支援 ・リフレッシュリゾート施設利用助成 ・少年少女発明クラブ支援
現在における経過又は課題	社会教育関係団体の活性化を進めるため、生涯学習関連団体等が自主活動の内容等を情報発信できるように進め、関連団体が町内で行う様々な活動や事業に連携して取り組んでいる。 地域学校協働本部事業については、安定した運営を引き続き継続していけるよう、体制を維持していくことが必要である。 文化協会においては、作品展や発表会、講座の実施など個々の活動以外にも様々な事業に取り組んでいるが、活動団体や会員の減少傾向が続いている。		
令和 7 年度の目標又は改善策	・文化協会及び各種団体については、生涯学習講座と連携し、団体の魅力を引き出しながら、各団体の会員が増えるように進めていく。 ・開かれた学校づくりの一環として、地域住民が学校支援ボランティアとして協力ができるよう、地域学校協働本部と連携をし、学校活動を支えていく。また、ボランティアから「こんな支援ができる」などの提案を聞きながらボランティアの活動できる場の提供を支援していく。 ・少年少女発明クラブについては、子どもたちが理科に興味を持ち続けることができるように、引き続き体制の支援を図っていく。 ・リフレッシュリゾート施設利用助成については、引き続き、PRをしながら利用を促していく。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第4章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する					
	基本政策	第1節	生涯学習の推進					
成果指標	地域学校協働本部事業ボランティア登録数							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
	97人	79人	80人	79人	87人	83人	94人	100人

■3年間の目標

目標					
項 目（単位）			R5実績	R6実績	R7目標

■次年度以降の予定

社会教育の機会が提供できるよう関係団体と事業を模索し、進める。 第8次大口町総合計画の策定と合わせ、生涯学習基本構想の見直しを行う。	

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	大口町文化協会補助金交付決定 事業の展開支援（4月～3月） 生涯学習のまちづくり事業委託契約 発明クラブなどと協働委託契約を締結
6	芸能文化事業の展開（6月～2月） ・ほほえみコンサート、なんでもマラソンコンサート、おおぐち合唱祭
7	二十歳の集いの実行委員会立ち上げ 事業の展開（8月～1月）
1	二十歳の集い開催
随	リフレッシュリゾート施設利用申請受付、利用券交付（4月～3月）

■目標又は改善策に対する取組内容

地域学校協働本部（学校支援地域本部）事業や文化協会の事業において、各事業を実施した。

○地域学校協働本部（学校支援地域本部）事業

ボランティア登録人数 94人（R8. 3月末）

大口中学校及び3小学校において、ボランティアの協力を得て、学校活動のサポートを実施。また、町探検などの校外学習の引率サポートを行った。

活動内容：地域ふれあい清掃、環境ボランティア、図書館サポート、特別支援学級授業サポート、大中学習室見守りサポート、生け花サポート、検診サポート、保健室サポート、まちたんけん見守りサポート

○文化協会支援

文化部、芸能部合わせて17団体、228人

事業実績（作品展・芸能発表会・教室・発表会） 74事業

○芸能文化事業

ほほえみコンサート（3回） なんでもマラソンコンサート（1回）

大人のピアノ発表会（1回） おおぐち合唱祭（1回）

○大口少年少女発明クラブ

大口少年少女発明クラブ 9回（5月から2月）延べ138人参加

○二十歳の集い

20歳を迎える成人で実行委員会を組織し、式典等の企画運営を実施

式典：参加人数182人

二十歳のお祝い花火により、実行委員会を始め20歳の皆さんによるカウントダウンを実施、町内全体で門出をお祝いした。

○リフレッシュリゾート施設利用助成

助成額2,003,000円

（昼神温泉238件 日間賀島217件 共済25件 松江113件 遠野1件 南三陸2件 F D A利用86件）

■評価

・地域学校協働本部については、ボランティアの方々の協力を得て、学校活動のサポートをすることができた。今後も地域で学校を支えることができるよう学校別のスタッフを設け、学校とボランティアの橋渡しができるよう体制等を見直しながら進めていく。

また、ボランティア登録者が引き続き、学校支援活動がやりがいとなるように支援を継続していく。

・文化協会においては、作品展と芸能発表会を文芸部と芸能部の垣根を超え、協会全体で企画から当日の運営までを行い、全体の一体感が高まっているため、今後も協会全体の事業として進めていく。

・芸能文化事業においては、団体の協力により、ほほえみコンサート、なんでもマラソンコンサート、大人のピアノ発表会、おおぐち合唱祭を実施することができ、多くの方に音楽とふれあう場を提供できている。少年少女発明クラブにおいては、町内企業技術者O Bから専門的なモノづくりを学べる場を提供できている。今後も団体の協力を得ながら、事業を進めていく。

また、二十歳の集いでは、実行委員を集めるのに苦慮しているため、前年委員からの紹介など工夫をし進めていく。前日に行った花火では、大勢の方が観覧に訪れ、20歳の皆さん、成人の日をPRすることができ、町全体で祝うことができた。今後も実行委員と連携し進めていく。

・リフレッシュリゾート施設利用助成については、令和6年度から宿泊助成が23件増加している。

またF D A利用助成については35件増加している。引き続き、P Rをしながら利用を促せればと考える。

令和 7 年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-5-1-(5)
事業名	生涯学習講座事業		

■基礎情報

目的	町民一人ひとりが、変化の多い社会の中で「明るく、楽しく、豊かに」生きることを願い、様々な分野の各種講座を開設し、個々の教養や技術を習得すること。		
事務内容	・ 定期講座 ※主に教養を深めることや趣味の拡大を目的に随時 1 講座 6 回程度開催する。	・ 旬の講座 ※その季節にあわせて 1 講座 1 回から 3 回程度開催する。	・ 高齢者教室（さくら大学）
現在における経過又は課題	・ コロナ前は前期・後期に分けて様々な講座を企画していたが、コロナ禍で講座開催を自粛して以降、十分な講座数や連続した回数の講座開催ができていない。以前のように講座数を増やし・前期・後期に分けて開催実施できるよう、外部委託等検討をし、生涯学習講座等の充実を図りたい。		
令和 7 年度の目標又は改善策	・ 講座内容について、企画する上で、地域の住民が講師となり活躍できる講座の開設を中心に、様々な方面から情報を模索し、きっかけづくりとなる講座を考える。 講座企画等については、外部委託も含め、前期・後期と分け、講座数を増やし、取り組む。 ・ さくら大学については、憩いの四季と連携しながら、講習会を実施していく。 ・ 松江市と姉妹都市提携して 10 年を迎え、来待石に関する内容以外の講座の企画に向け、準備を進める。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第4章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する						
	基本政策	第1節	生涯学習の推進						
成果指標	生涯学習講座のメニューの数の満足度								
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値	
	59.5%	63.3%	－	－	－	－	56.1%	65.0%	

■3年間の目標

目標					
項 目（単位）	R5実績	R6実績	R7目標	R8目標	R9目標

■次年度以降の予定

住民ニーズに応じた生涯学習講座の開設及び講座から派生した地域活動などの支援を行う。

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
年間	さくら大学 松江市提携講座 生涯学習講座を受付及び受講を開始

■目標又は改善策に対する取組内容

前期講座では、講師登録のある講師や、町内団体から講師に迎え、「お試し！大正琴」を始めとする6つの講座を24日に渡り開催し、延べ281名の参加があった。 アンケートでは、地元のことを知れてよかった、実際に触れたり現地に赴けてよかった等の意見が見られた。 後期講座は、まちなっと大口に委託を行い、働き盛りの世代を対象に夜間や土日に開催し、「大人も楽しめる！ボードゲーム」を始めとする6つの講座を9日に渡り開催し、延べ79名の参加があった。 また、3月に実施される薪能に合わせ、「能の楽しみ方を知ろう」を実施し、11名の参加があった。 高齢者教室として、憩いの四季に委託を行い、年12回開催し、延べ225人の方の参加があった。

■評価

前期講座では、町内の文化協会のクラブや大口歴史愛好会の方々、講師登録者の中から町内在住の方に優先して依頼し、町内の方々が活躍できる機会を設け、講座の内容に興味を持っていただけるよう取り組んだ。 また、ふるさと納税の返礼品の酒造所や薪能の能楽師に講師を依頼し、町にゆかりや関わりのあるところで興味を持っていただけるよう講座を開催した。 7年度からは、後期講座を町内のまちづくりや活動団体の支援を行っている「まちなっと大口」に委託し、働き盛りの大人をターゲットとし、参加しやすい時間帯や土日に講座を企画、講師は町内のグループや活躍されている個人を招き講座を実施し、講座を通して町内の活動などに興味を持っていただける講座を実施することができた。今後も町内での活躍の場作りとして、また町に興味を持っていただけるよう事業を継続していく。
--

令和7年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-5-2-(3)
事業名	中央公民館管理事業		

■基礎情報

目的	町民が安全で快適に学習できるよう、施設を整備し、町民が気楽に集まり教養や技術を習得することができると共に「明るく、楽しく、豊かに」生きることの一助とする。		
事務内容	・施設の利用者対応 ・設備の維持管理 ※外注分は協議・契約・履行確認		
現在における経過又は課題	・施設内の老朽箇所が散見されるため、随時対応していく。特に配管設備や電気設備について、急な不具合が発生する事案が度々あり、その都度修繕対応が必要である。 ・施設利用者の安全面の点から中央公民館の消防設備点検時に指摘があったものについて、工事修繕を行う必要がある。 ・集会室の壁面の損傷している箇所が多数あるため張替え補強及び施設内電気系統（LED）の不具合の修繕を行う必要がある。 ・集会室卓球台及びバレーボール支柱が老朽化しており、備品更新が必要である。 ・周辺の樹木の剪定・伐採など、外観美化にできる限り努めていく。		
令和7年度の目標又は改善策	・随時発生する不具合において、その都度迅速に対応していく。また、光熱水費について、経済的な面、環境的な面から節制を心掛けていく。 ・消防設備については年次点検時に非常照明器具の照明切れが多数あったため一括して取替をおこなう。また1階から3階の防煙スクリーンの動作不備や屋内消火栓設備、自動火災報知設備、自家発電設備で点検時に指摘のあった取替が必要なものについても対応していく。 ・集会室卓球台については、老朽化しているため、令和7年度から数年をかけて計画的に更新する。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する						
	基本政策	第 1 節	生涯学習の推進						
成果指標									
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値	

■3年間の目標

目標	施設の突発的な不具合に際し、優先度を考慮しながら迅速に対応する。					
項 目（単位）				R5実績	R6実績	R7目標

■次年度以降の予定

施設の突発的な不具合に際し、優先度を考慮しながら迅速に対応する。	
----------------------------------	--

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	年間を通して行う保守点検等の契約締結 随時、履行確認をしていく。
年間	消防設備取替工事 非常照明器具 防煙スクリーン 避難器具救護袋 * 突発的な施設の不具合等への対応に努めながら、健全な施設運営を図っていく。

■目標又は改善策に対する取組内容

修繕(主なもの)	
6月	男子トイレウォシュレット（3F）修繕 121,000円
2月	駐車場誘導ポール取付修繕 154,000円
3月	トイレ換気ファン取替修繕 198,000円
	研修視聴覚室暗幕修繕 99,198円
工事	
10月	消防設備工事 3,696,000円
3月	パーテーション設置工事（2F） 371,800円
年間通して、消防設備、自動扉、エレベーター、電気設備、冷暖房機等の保守点検を実施	

■評価

・消防設備を始めとする設備等の保守点検を行い、施設の維持管理に努めた。 ・施設老朽化のため突発的な不具合や故障については、都度修繕しながら施設を維持した。 ・消防設備においては、使用期限が満了となるものや、使用期間から推奨交換等のLEDの非常照明（52カ所）を始めとする、部品や消耗品などの交換を行い適切な設備の維持管理に努めた。一般利用の施設であることから、点検報告をもとに今後も維持管理を進める。 ・主な修繕については、利用時に支障がある内容について順次修繕を進めているが、施設が古くなっていることから今後も順次修繕を進める。 ・備品の中でも老朽化している卓球台は、7年度より更新計画（年2台×5年間 合計10台）の初年度として2台の更新を行った。	
--	--

令和 7 年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-5-2-(4)
事業名	町民会館管理事業		

■ 基礎情報

目的	町民が安全で快適に学習できるよう、施設を整備し、町民が学習成果の発表を行う場や講習等の教養を習得すると共に「明るく、楽しく、豊かに」生きることの一助とする。		
事務内容	・ 設備の維持管理 ※外注分は協議・契約・履行確認		・ 支払処理 ・ 消耗品等の補充
現在における経過又は課題	・ 開館からすでに30年以上経過しており、施設の老朽化や非構造物の耐震診断の結果、屋根の雨漏り箇所や天井材に不具合が確認されていることから、平成30年度に大規模改修工事を行った。施設内の老朽箇所が散見されるため、随時対応していく。 ・ 令和2年度には2階ホールの舞台吊り物装置の一部を改修し、経年劣化による危険性に対して万全を期した。 ・ 調光盤やケーブルなどの舞台照明機器については、耐用年数の経過や経年劣化により機器更新の計画等の検討が必要である。 ・ 町民会館の消防用自家発電設備については建設当初から使用しており、経年による老朽化のため、取替を行っていく必要がある。 ・ 町民会館駐車場について、令和6年度より駐車場枠の白線の補修を行っているが、経年劣化により舗装面が傷んでいるため、改修工事の計画等の検討が必要である。		
令和7年度の目標又は改善策	・ 施設の効果的な運用を図るとともに、修理箇所が発生した場合はその都度対応するなどして、適切な維持管理を実施していく。 ・ 昨年度に引き続き、1階会議室からホールステージまでの階段等に手摺りを取付け、高齢者の方に利用しやすいよう工事を行う。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第4章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する					
	基本政策	第1節	生涯学習の推進					
成果指標								
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値

■3年間の目標

目標					
項 目（単位）	R5実績	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標

■次年度以降の予定

施設の突発的な不具合に際し、優先度を考慮しながら迅速に対応する。
特に消防設備については、計画的に取替が必要なものについて順次対応していく。
舞台照明機器のLEDへの更新など検討をする。

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	年間を通して行う保守点検等の契約締結 随時、履行確認をしていく。 手摺取付工事 * 突発的な施設の不具合等への対応に努めながら、健全な施設運営を図っていく。

■目標又は改善策に対する取組内容

修繕（主なもの）		
10月	多目的トイレ取替修繕	502,810円
2月	1階エントランス空調機修繕	154,000円
	誘導灯ランプ交換	143,000円
工事		
6月	町民会館手摺取付工事	242,000円

■評価

・施設が建設から30年以上経過しており、老朽化のため突発的な不具合や故障については、都度修繕しながら施設を維持した。
主な修繕については、多目的トイレの壁面及び床面の水栓スイッチが不良となり、便器を含む一式の交換を実施。また不良となった1階エントランスの空調機の修繕を行い、利用の際に不具合が無いよう維持管理に努めた。
・手摺工事については、昨年度と2か年で階段への手摺が完了し、安全に利用できるよう改善ができた。
・自家発電設備については、点検において使用年数から交換の推奨となっているが、大規模なものになるため、今後の課題となっている。

令和 7 年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-6-1-(3)
事業名	社会体育振興事業		

■基礎情報

目的	町民が暮らしの中に「スポーツ」を取り入れ「健康」と「元気」になれるよう、「町民と結びついた社会体育」をスローガンに各種講習会や大会などを開催し、町民にスポーツ参加の機会と普及に努めること。		
事務内容	・スポーツ教室開催 ・スポーツ大会開催 ・愛知駅伝記録会 ・丹羽高等学校体育施設開放運営委員会	・地区別ソフトボール大会 ・町民体育祭 ・桜並木健康ジョギング ・スポーツ協会支援 ・スポーツ少年団支援	
現在における経過又は課題	・若い世代から高齢者まで、生涯にわたって健康・体力づくりに取り組めるよう、多様なスポーツに親しむ機会の充実に努めていく。 ・グラウンドや温水プールの指定管理とあわせて、地域のスポーツの担い手として、総合型地域スポーツクラブの活動を支援できるよう努めていく。 ・子ども向けのスポーツ事業については、総合型地域スポーツクラブであるNPO法人ウィル大ロススポーツクラブと役割確認しながら、引き続き事業を継続していく。 ・イベントについては、継続していくため、その時々にあった内容を取り入れながら実施していく。 ・団体支援については、団体のみが参加する活動だけではなく、地域の人たちも参加できる形での地域貢献の場を設けていく必要がある。		
令和7年度の目標又は改善策	・普段仕事や子育て等でなかなかスポーツにふれあう機会の少ない世代に対し、生涯スポーツのきっかけとなるようなアプローチを実施していく。 ・ニュースポーツ教室として、令和5年度と6年度にモルック体験教室を企画・実施している。幼児から高齢者までできる競技であるため、引き続き事業の継続を図りつつ、教室とは別の展開を検討していく。 ・町民体育祭については、令和6年度に半日開催を計画し、開催した。今年度についても各区長や実行委員の意見を聞きながら、検討する。 ・地区別ソフトボールについては、女子チームの参加が1チームしかなかったため、参加方法を見直しながら検討する必要がある。 ・スポーツ協会及びスポーツ少年団については、自立した運営が図れるよう引き続き支援を行っていく。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する					
	基本政策	第 1 節	生涯学習の推進					
成果指標	町が主催したスポーツ大会・教室の参加人数							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
	6,550人	5,500人	-	410人	767人	3,216人	843人	7,000人

成果指標	スポーツ少年団指導者有資格者（指導者による割合）							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
	36.0%	96.0%	93.3%	97.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

成果指標	スポーツ施設利用者数							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
	500,360人	544,289人	513,241人	563,920人	564,575人	564,538人	574,360人	570,000人

■3年間の目標

目標	体を動かすきっかけづくりとなる生涯スポーツの啓発をする。スポーツを通じた交流・ネットワークの充実を図る					
項 目（単位）		R5実績	R6実績	R7目標	R8目標	R9目標

■次年度以降の予定

体を動かすきっかけづくりとなる生涯スポーツの啓発をする。スポーツを通じた交流・ネットワークの充実を図る。							

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	各団体補助金交付決定 事業の展開支援（4月～3月）
	区長会（4月、6月、9月、1月）
5	町民体育祭実行委員会（5月、7月、8月、1月）
	愛知駅伝記録会（5月、6月、9月）
6	タグラグビー教室・モルック体験
8	スポーツ少年団軟式野球西尾張大会
9	地区別ソフトボール大会開催
10	町民体育祭（雨天中止）
	スポ少交流会
11	ネットボール体験会
12	愛知駅伝参加
1	モルック大会
3	桜並木健康ジョギング開催
	・スポーツ推進委員定例会は毎月1回開催（8月、3月は除く）

■目標又は改善策に対する取組内容

○講座・教室

タグラグビー教室・モルック体験（６月８日（日）開催）参加者８組２０人

ネットボール体験会（１１月１日（土）開催）参加者１０４人

モルック大会（１月２５日（日）開催）参加者１６チーム５５人

○スポーツ推進委員活動

委員会（委員会１１回開催、スポーツ教室、町民体育祭、桜並木健康ジョギングなどを運営）

○スポーツ大会開催

地区別ソフトボール大会（９月７日（日）、１４日（日）開催）参加チーム１０チーム１９７名

地区別対抗グラウンドゴルフ大会（１１月１５日（土）開催）参加チーム１８チーム９０名

町民体育祭（１０月５日（日）半日開催予定であったが雨天中止）

愛知万博メモリアル第１８回愛知県市町村対抗駅伝競走大会（１２月６日（土））参加選手２０名

桜並木健康ジョギング（３月８日（日）開催）

参加者数３５７人（内訳）５km１１１人、３km１４５人、１.８km１０１人

○スポーツ協会・スポーツ少年団事業

スポーツ協会（８団体）

春季町民総合体育大会

第５１回扶桑町・大口町親善体育大会

秋季町民総合体育大会

グラウンドゴルフ大会などを実施

スポーツ少年団（４団体）

全国スポーツ少年団軟式野球交流大会地区大会

体力テスト

交流会（モルック大会）

愛知県スポーツ少年大会西尾張支部大会などを実施

■評価

・スポーツ推進委員活動について、タグラグビー教室及びモルック体験、ネットボール体験会、モルック大会を実施した。モルック大会では、これまでに継続してきたモルック体験教室を踏まえ、大会へと開催方法を変更した。モルックについては、年齢問わず参加でき、ルールもわかりやすいため、小さな子どもから高齢者まで多世代の参加があり、今後も継続して開催してほしいという参加者の声が多かったため、定期的な開催を計画していきたい。

・町民体育祭については、令和６年度と同様に半日での開催を計画していたが、前日の雨天により中止を決定した。４月の区長会において町民体育祭の開催の是非を問う意見があったことから、各区長にアンケートを実施した結果、各区の人的及び金銭的な負担が軽くなれば開催に前向きな意見が多かったため、少人数かつ年齢や性別を問わず実施できる新しい地区別対抗種目の考案や各地区のテント等の備品賃借料を実行委員会で一部負担する計画としていた。実行委員会において、令和８年度については今年度の計画を持ち越すことで令和８年度の実行委員会へ申し送りを行うこととした。

・地区別ソフトボール大会と地区別グラウンドゴルフ大会については、区の協力を得ながら実施することができた。地区別ソフトボールの女子の部については、申込が無く実施することができなかった。地区別グラウンドゴルフ大会は、当日の運営をスポーツ協会のグラウンドゴルフ協会が担ってきたが、会員数減少及び高齢化により２月にスポーツ協会を脱会したことから、令和８年度の開催方法について、スポーツ協会と調整が必要となる。

・スポーツ協会及びスポーツ少年団の運営については、各団との連携を密にとり、円滑な事業となるよう取り組んだ。今後も各団の自主自立による運営のため、助言などを行っていく。

令和 7 年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-6-2-(3)
事業名	温水プール管理事業		

■基礎情報

目的	町民が安全で快適にスポーツを楽しむことができるような施設の一つとして、一年を通して活用できる温水プールを整備することで町民の体力づくり、健康づくりに努め、スポーツによる明るいまちづくりを推進する。		
事務内容	・指定管理者による施設の確認 ・指定管理の範囲外の工事等について、検討し実施。		
現在における経過又は課題	・施設の管理運営は平成 22 年度から指定管理者制度を導入しており、令和 6 年度に指定管理の募集・更新手続きを行い、令和 7 年度から令和 11 年度までの 5 年間ウィル大口スポーツクラブと指定管理協定を締結し、管理運営を委ねている。 - 長年の経験から、蓄積された施設の管理・運営ノウハウや利用者の集客手法を活かしてもらい、引き続き、指定管理を行ってもらう。 ・令和 3 年 8 月にオークマ株式会社とネーミングライツ契約を締結し、大口町温水プールは、「オークマ温水プール」と命名された。契約期間は令和 3 年 10 月 1 日から令和 8 年 9 月 30 日の 5 年間である。 ・施設自体は、開場から 40 年以上が経過しており、令和 6 年度温水プールの長寿命化改修を行うための基礎調査を実施し、施設の躯体を生かし、長寿命化が見込めることから基本計画を策定した。 ・温水プールの長寿命化を進めるため、施設の修繕内容や利用料などの検討を進めていく。		
令和 7 年度の目標又は改善策	・施設の管理運営が指定管理者に委ねられていることから、施設の適正な運営が行われているかの指導・助言を実施していく。また、指定管理者との連携を密にするため、定期的な連絡会議を引き続き実施していく。 ・令和 6 年度に実施した温水プールの長寿命化改修を行うための調査及び大規模改修に向け、改修する部分、更新する設備などを整理策定した基本計画に沿って、物理的な不具合を直し、建物の耐久性を高め、建物の機能や性能を現在温水プールに求められている水準まで引き上げる改修内容を検討し、同時に利用方法や利用料についても検討する。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する					
	基本政策	第 1 節	生涯学習の推進					
成果指標	スポーツ活動、教室のメニューや数の満足度							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R8目標値
	58.60%	54.60%	－	－	－	－	58.40%	70.00%

■3年間の目標

目標						
	項 目（単位）	R5実績	R6実績	R7目標	R8目標	R9目標

■次年度以降の予定

温水プール施設調査を踏まえ、策定した改修に係る基本計画に基づき、具体的な設計を行い、改修工事内容等を検討する。また、今後の施設の利用料についても検討する。

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	指定管理年度協定締結 温水プール施設改修工事の具体的な設計実施の準備 年間を通して施設の管理運営が適切に行われているか、指定管理者の報告を受けて、課題に取り組んでいく。

■目標又は改善策に対する取組内容

・温水プールのネーミングライツ契約 550,000円（令和7年4月～令和8年3月分） （契約期間 令和3年10月1日～令和8年9月30日 契約金額 2,750,000円） 愛称：オークマ温水プール 愛称の表示場所：プール施設（正面、東側）、案内板 ・令和7年度から令和11年度までの5年間ウィル大口スポーツクラブと指定管理に関する協定を締結した。 ・定期的に情報共有会議を実施 （指定管理施設の修繕計画や利用人数などの状況報告など）
--

■評価

・施設管理・運営について、指定管理者であるウィル大口スポーツクラブと定期的に打合せを行い、情報共有しながら行うことができた。 ・令和6年度に実施した温水プールの長寿命化改修を行うための調査及び大規模改修に向け、改修する部分、更新する設備などを整理策定した基本計画に沿って、物理的な不具合を直し、建物の耐久性を高め、建物の機能や性能を現在温水プールに求められている水準まで引き上げる改修内容を検討し、具体的な設計を実施する予定であったが、交付金の活用を検討する中で、スポーツ施設の整備やスポーツ事業を地域の産業と捉え、地域のにぎわいを創出し盛り上げる事業を交付対象とした地域未来交付金の活用が見込めることが確認できたため、令和8年度に交付金申請を行い、事業採択の動向に注視しながら、上記内容については次年度以降検討していく。同時に利用方法や利用料金についても検討する。 ・プールのベンチが経年劣化していたため、備品購入した。

令和7年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-6-2-(4)
事業名	グラウンド等管理事業		

■基礎情報

目的	町民が安全で快適にスポーツを楽しむことができるよう、また、多種多様なスポーツ種目の要望に応えられるように施設を整備し、町民の体力づくり、健康づくりに努め、スポーツによる明るいまちづくりを推進する。		
事務内容	・指定管理委託した施設の町負担分支払		
現在における経過又は課題	・平成27年度からすべてのスポーツ施設を指定管理者制度に移行したため、指定管理者と調整しながら施設の維持にあたっている。令和6年度に指定管理の募集・更新手続きを行い、令和7年度から令和11年度までの5年間、すべてのスポーツ施設をウィル大口スポーツクラブに管理運営を委ねている。長年の経験から、蓄積された施設の管理・運営ノウハウや利用者の集客手法を活かしてもらい、引き続き施設管理を行ってもらう。 ・令和2年度には、夜間のスポーツ施設の利用を可能にするため、わかしゃち国体記念運動公園に照明設備を設置した。また、総合グラウンドのゲートボール場1面を駐車場に改修し、周辺施設利用の際の駐車台数確保に努めた。 ・令和3年8月にオークマ株式会社とネーミングライツ契約を締結し、大口町総合運動場は「オークマグラウンド」と命名された。契約期間は令和3年10月1日から令和8年9月30日の5年間である。		
令和7年度の目標又は改善策	・管理運営が指定管理者に委ねられている施設について、指定管理者が適切な管理に努めるよう指導・助言をしていく。また、経費抑制や適正な管理ができるよう協議を続ける。 施設の利用については、利用者が利用しやすいように、利用の仕方を指定管理者と協議しながら考えていく必要がある。 ・オークマグラウンド管理棟について漏水がみられるため、また、建物自体も劣化が生じているため調査を行い、工事対応していく。また、建物の暑さ対策の方法等を検討し、管理棟等の改修工事を進める。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する					
	基本政策	第 1 節	生涯学習の推進					
成果指標	スポーツ活動、教室のメニューや数の満足度							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R8目標値
	58. 60%	54. 60%	－	－	－	－	58. 40%	70. 00%

■3年間の目標

目標	スポーツ施設全般の機能充実を図る							
項 目（単位）				R5実績	R6実績	R7目標	R8目標	R9目標

■次年度以降の予定

スポーツ施設全般の機能充実を図る。								

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	指定管理者制度導入施設の年度協定締結
5	管理棟等改修工事設計
10	管理棟等改修工事、工事施工監理
	年間を通して施設の管理運営が適切に行われているか、指定管理者の運営を見守っていく。 大規模な修繕が発生した場合は、指定管理者と協議しながら対応していく。

■目標又は改善策に対する取組内容

工事 総合運動場管理棟改修工事 29,590,000円 総合運動場のネーミングライツ契約 600,000円（令和7年4月～令和8年3月分） （契約期間 令和3年10月1日～令和8年9月30日 契約金額 3,000,000円） 愛称：オークマグラウンド 愛称の表示場所：正門、管理棟、A面スタンド、案内板
--

■評価

・温水プール同様、グラウンド管理についても指定管理者であるウィル大口スポーツクラブと定期的に打合せを行い、情報共有をしながら施設運営することができた。 ・総合運動場管理棟は、安全性・利便性を高めるための防水補修、外装補修、塗装及び断熱補修を行うため、工事を実施した。今後は、グラウンド利用者の休憩所としてだけでなく、一般の方向けのクーリングシェルターの指定についても検討していく。
--

令和 7 年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-6-2-(5)
事業名	野外活動施設管理事業		

■基礎情報

目的	町民が自然にふれあいながら規律、協調、友愛の精神を養い、心身ともに健全に、また、より豊かな心を養うことを目的とし、安心して利用できる施設管理を目的とする。		
事務内容	設備の維持管理 ※外注分は協議・契約・履行確認		- 支払処理 - 消耗品等の補充
現在における経過又は課題	- 開場からすでに40年以上経過しており、施設全体の老朽化は否めない。アスレチック施設については経年劣化が目立ってきており、毎年の遊具点検により使用の可否を見極めながら、点検で撤去推奨判定の遊具については、撤去などの措置を行っていく。 - 施設全体のあり方について、敷地内の樹木管理やアスレチック遊具の管理、キャンプ場の利用も少ないことから、今後の課題として、施設の方向性を地元と検討していきたい。		
令和7年度の目標又は改善策	- 地元住民の有志グループに日常管理を委託してきたが、高齢化に伴い、負担のかかる除草作業等業務が難しい現状があるため、草刈り・落ち葉清掃を業者委託していく。 - 施設の老朽化が進んでいるため、修繕などで対応していくか、点検で撤去推奨判定の遊具については、撤去などの措置を行っていく。 - 施設全体のあり方について、敷地内の樹木管理やアスレチック遊具の管理、キャンプ場の利用も少ないことから、施設の方向性を地元と検討していく。		

総合計画の 体系	基本目標	第4章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する						
	基本政策	第1節	生涯学習の推進						
成果指標	スポーツ活動、教室のメニューや数の満足度								
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値	
	58.60%	54.60%	－	－	－	－	58.40%	70.00%	

目標	施設の遊具の適切な管理・運用を図る				
項 目（単位）	R5実績	R6実績	R7目標	R8目標	R9目標

野外活動施設全体のあり方について、施設の方向性を地元と検討していく。

月	作 業 内 容
4	年間を通して行う保守点検等の契約締結 随時、履行確認をしていく。 * 突発的な施設の不具合等への対応に努めながら、健全な施設運営を図っていく。

工事		
7月	アスレチック遊具撤去工事	825,000円
	木製遊具4機撤去	
その他		
6～11月	樹木選定等	199,240円
11月	高木(松)剪定	333,000円
6～3月	草刈り、落ち葉清掃	648,354円

アスレチック遊具については、年間点検において指摘の遊具について、木製であることから腐食が見られ撤去を行った。しかし、遊具数が減り、新たな遊具の設置について今後の施設の利用方法と合わせて検討が必要である。

地域の方と打ち合わせでは、地域での清掃活動を行っているが、樹木が高木になり維持管理に不安があることや、近隣に住宅が増え、夜間利用などが難しいことなどの意見を伺った。

日常管理については、7年度から、落ち葉清掃など一部民間へ委託を行い実施してきたが、地元有志の団体が高齢になり、団体の継続が難しいことから、8年度からは、民間への委託業務を検討していく。

施設のあり方については アスレチック遊具の老朽化や、施設周辺における課題などから、現状施設での利用等について、引き続き方向性を検討していく。施設の利用については、利用者が怪我なく利用しやすい運営に努める。

令和 7 年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-5-4-(3)
事業名	文化財保護事業		

■基礎情報

目的	郷土おおぐちに遺る貴重な文化遺産の保存及び活用に努め、次世代へ継承する。		
事務内容	・ 指定文化財の保存と活用 ・ 新規に指定可能な文化財の調査 ・ 町の歴史に係る調査及び研究		・ 埋蔵文化財の保護と開発に係る調査 ・ 伝統芸能の普及と継承
現在における経過又は課題	町内に遺る指定文化財に加え、未指定でも近年急速に失われつつある郷土の歴史を物語る上で貴重な文化遺産について調査及び研究を行い、それらを保存及び活用することにより、町民に対して保護意識の醸成を図る。 各地区に伝わる伝統芸能について、コロナ禍後に活動を再開したものの、継続が困難になりつつある団体もある。このため、伝統芸能を次世代へ継承し、発表の場を創出しなければならない。		
令和 7 年度の目標又は改善策	町内に遺る多種多様な文化遺産について、研究者や地域住民の協力を得ながら調査及び研究を進め、その成果を町民に還元する。また、今年度は国道 1 5 5 号道路改良事業に伴う発掘調査が実施される予定であり、その管理・監督を担う。 毎年 4 月及び 1 0 月に伝統芸能発表会を開催する。特に秋の伝統芸能発表会は、令和 5 年度に新しい会場（多世代が集う憩い広場）で初めて開催して以降、地域住民とともにその規模は拡大しつつも、発表会中に多くの来場者が観覧できるような会場レイアウトの工夫や、発表会後のステージ活用等、改善点は多くあるため、今年度はそれらの諸課題をできる限り改善して実施する。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第4章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する					
	基本政策	第1節	生涯学習の推進					
成果指標	所蔵資料点数							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
	12,387点	12,898点	13,838点	14,159点	14,333点	14,817点	15,725点	13,800点

■3年間の目標

目標					
項 目（単位）			R5実績	R6実績	R7実績

■次年度以降の予定

【R8年度以降】秋の伝統芸能発表会（多世代が集うまつり）のさらなる規模拡大、内容の充実。

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
10～	●文化遺産の調査及び普及啓発活動 調査は専門家や地域住民の協力を得ながら通年で実施。地元の文化遺産に関する認知度を高めるため、普及啓発活動を随時開催。 国道155号道路改良事業に係る発掘調査
4	●伝統芸能保存及び継承
6	金助桜まつりでの伝統芸能披露
10	伝統芸能保存会会議において、各地区の現状等を把握し、今後の継続的な活動について検討。 多世代が集う憩い広場での伝統芸能発表会（多世代が集うまつり）の開催

■目標又は改善策に対する取組内容

町内に残る貴重な文化遺産について、研究者や地元住民の協力を得ながら把握及び調査に努め、現地での解説や資料館展示室内における指定文化財の解説等、普及啓発活動を行った。
伝統芸能について、春は雨天中止となり、秋も雨天だったため、大口北防災センター内での発表会開催となった。秋の伝統芸能発表会は、多世代が集うまつりと同時開催で行われ、その準備から運営にあたっては実行委員会が進めていった。

■評価

多世代が集うまつり実行委員会の運営により、秋の伝統芸能発表会を包括した多世代が集うまつりは、北地域で活躍する団体・個人のブース出展が昨年度より増加し、昨年度課題となった会場レイアウトも一部変更して準備を整えた。しかし、当日は残念ながら雨天により、大口北防災センターでの開催となった。初の屋内会場において開催することとなったが、伝統芸能をはじめ、各団体のブースも大きなトラブル無く執り行うことができた。今後継続していくことを考えれば、屋内会場での開催は実行委員会にとって大きな経験となった。会場は元々小口城の城域だったため、次年度以降はその特性を活かした内容も盛り込んでもらうよう、実行委員会で働きかけていきたい。

令和7年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	10-5-4-(4)
事業名	歴史民俗資料館運営事業		

■基礎情報

目的	先人が培ってきた過去の営みを現在に伝えるため、郷土おおぐちに関係する歴史・民俗・美術分野等の展示を行い、町民の知的欲求に応える。また、小中学校の見学や資料貸出等により、学校教育に寄与する。		
事務内容	・年4回の企画展開催 ・資料館内の管理及び運営 ・展示解説及び展示物に係る調査研究 ・文化財収蔵庫の管理	・収蔵品の管理及び活用 ・小中学校等の見学受入れ ・博物館実習生の受入れ ・年報及び展示図録等の発行	
現在における経過又は課題	年4回開催している企画展のうち、小学生以下の子どもを持つ家族を対象とした毎年恒例の春の企画展「端午の節句」及び冬の企画展「ひなまつり」は、令和5年度以降、入館者数が増加傾向にある。夏・秋の企画展についても、子ども向けや町に関する事柄等、親しみやすい企画展を開催し、資料館に足を運んでいただく方法を検討及び実施する。 文化財収蔵庫内の資料及び施設自体の活用を推進する。文化財収蔵庫の外壁は、平成26年度に改修して10年を経過し、木部の塗装が薄くなり、釘隠しの鉤も浮いているものが目立つ等、経年劣化が見受けられるため、再度改修する必要がある。収蔵品については、小中学校及び高齢者施設等が積極的に利用できるように努める。		
令和7年度の目標又は改善策	春及び冬の企画展は、定例とはいえなるべく多くの入館者に来館してもらえるよう工夫を凝らして開催する。また、夏及び秋の企画展は、夏休み中の小中学生を対象とした内容、町内における歴史的事柄及び周年記念に関するテーマを中心に開催する。 文化財収蔵庫は劣化した外壁の改修工事を行い、施設自体の整備を進める。収蔵品の活用は、年1回の施設開放及び月1回の「オレンジカフェ・大口」への資料貸与を実施し、教育及び福祉関係機関と連携を深める。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する					
	基本政策	第 1 節	生涯学習の推進					
成果指標	所蔵資料点数							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
	12,387点	12,898点	13,838点	14,159点	14,333点	14,817点	15,725点	13,800点

成果指標	入館者数							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
	15,167人	9,528人	1,506人	5,365人	7,470人	6,431人	7,994人	20,000人

■ 3 年間の目標

目標					
項 目（単位）	R5実績	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標

■ 次年度以降の予定

【令和8年度以降】歴史民俗資料館常設展示室の見直し
（展示内容のリニューアル検討。また、防犯カメラ及び来館者等が触れることができる電子計算機器端末について、経年劣化による機器更新等）

■ 作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4	春の企画展開催（6月上旬まで）
6	文化財収蔵庫外壁改修工事
7	夏の企画展開催（9月上旬まで）
9	中学生職場体験受入れ
10	秋の企画展開催（12月中旬まで）
11	ふれあいまつりで文化財収蔵庫開放（計2日間）
1	冬の企画展開催（3月中旬まで）
	大口町社会福祉協議会が開催する「オレンジカフェ・大口」に収蔵品貸出 小中学校、高齢者施設及び町内各種団体に対し、文化財収蔵庫の団体見学受入れ及び収蔵品貸出

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- 資料館企画展
 - 春の企画展「端午の節句」
会期：令和7年4月19日（土）～6月1日（日） 入館者数：944人
 - 夏の企画展「～昭和100年をふりかえる～ こどものくらし」
会期：令和7年7月19日（土）～8月31日（日） 入館者数：869人
 - 秋の企画展「～昭和100年をふりかえる～ 地域が紡いだおおぐちのあゆみ」
会期：令和7年10月26日（土）～12月7日（日） 入館者数：1,427人
 - 冬の企画展「ひなまつり」
会期：令和8年1月24日（土）～3月8日（日） 入館者数：3,425人
- その他資料館活動
 - 文化財収蔵庫1日開放（令和7年11月1日（土）、2日（日））
 - 「オレンジカフェ・大口ぽかぽか」（認知症の当事者及びその家族に特化したカフェ）資料貸与（年3回）

■ 評価

年4回開催する企画展は、毎年恒例である春の「端午の節句」と冬の「ひなまつり」とともに、今年度は昭和元年から100年目にあたるため、昭和期にスポットをあて、夏は子ども向け、秋は大人向けの展示を行った。秋の企画展では、『大口町史～現代史編～』編さん後に寄贈を受けた史料の中から、昭和期のおおぐちのあゆみにとって重要なものを展示し、町史に記載した内容を一部補完することができた。
文化財収蔵庫及び収蔵品の活用も引き続き実施することができ、次年度も教育及び福祉関係機関と連携を深めて推進したい。

令和7年度 事業別行政経営計画書

所属名	生涯教育部生涯学習課	予算科目	—
事業名	歴史文化教育事業		

■基礎情報

目的	郷土「おおぐち」の歴史及び文化を、様々な団体と連携して次世代へ継承することにより、町民が郷土を愛し、町の魅力として誇りを持てるまちづくりを推進する。		
事務内容	・ 保育園との連携事業 ・ 小中学校における郷土学習 ・ 地域自治組織との連携事業 ・ 町内各種団体との連携事業		
現在における経過又は課題	現在、地域や家庭において郷土の歴史及び文化を次世代へ語り継ぐことが断絶している状況が窺える。 この課題を解決するため、様々な団体と連携し、老若男女問わず郷土の歴史、文化及び現在も遺る多様な文化遺産を次世代へ継承することにより、町民の郷土愛を育み、町の魅力として誇りを持つことができるようなまちづくりを推進していかなければならない。		
令和7年度の目標又は改善策	各保育園及び各地域自治組織との連携、町内の小学校6年生及び中学校2年生を対象とした「松江開府の祖 堀尾吉晴公」をはじめ、他学年においても郷土「おおぐち」をテーマとした授業を実施。機会があれば様々な団体と連携し、幅広く展開する。 また、令和5年度に刊行した『大口町史～現代史編～』や、昨年度作成した大口町内の航空写真を拡大印刷したカーペット等を、学校教育で活用する提案を検討することをはじめ、小中学校の郷土学習での講話や資料提供等、可能な支援を提案し、重点的に連携を推進する。		

■第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第 4 章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する					
	基本政策	第 1 節	生涯学習の推進					
成果指標	出前講座・授業開催数							
	H26実績値	R1実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	R7実績値	R7目標値
	20件	44件	36件	39件	42件	44件	40件	65件

■ 3年間の目標

目標					
項 目（単位）	R5実績	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標

■ 次年度以降の予定

【令和8年度】『大口市史～現代史編～』を活用した授業の試験的実践
 【令和9年度】『大口市史～現代史編～』を活用した授業の実践・定着

■ 作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
随時	北、西、南保育園連携事業「郷土を愛する心を育む活動」（年間3園合計で14回程度） 小学生を対象とした児童の発達段階に合わせた郷土学習（各学年で実施） 小学校6年生郷土学習「郷土の偉人 堀尾吉晴公」（11月以降実施） 中学校2年生郷土学習「郷土の偉人 堀尾吉晴公」（12月以降実施） 中地域自治組織歴史民俗部会にアドバイザーとして参加 南地域自治組織「南地域の歴史や文化遺産を次世代につなぐ事業」 北地域自治組織と小口城址周辺の文化遺産を活用した連携 その他、まちづくり団体等、町内の様々な団体とともに連携し事業を展開

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- 保育園連携「郷土を愛する心を育む活動」
 北保育園（入鹿切れ・小口城・織田街道）計3回
 西保育園（山姥物語・仁所野遺跡）計5回
 南保育園（裁断橋物語・汗かき地蔵（鑄鉄地蔵菩薩立像）・桜塚古墳）計6回
- 小中学校連携
 小学校3年生「昔の道具」での見学・体験プログラム
 小学校3年生「まちたんけん」での現地解説
 小学校5年生「総合学習」における学習支援
 小学校6年生「郷土の偉人 堀尾吉晴公」
 中学校2年生「堀尾吉晴のまちづくり」 等
- 地域自治組織
 南地域自治組織：かわら版における「南地域のたからもの」連載
 北地域自治組織：地域の文化遺産に関する講座及び現地見学
 中地域自治組織：アドバイザーとして歴史民俗部会に参加

この他、町内で活躍する団体等からの依頼により地域の文化遺産を活かした連携及び助言を行う。

■ 評価

学校及び保育園からの依頼は継続して受けており、中学校では2年ぶりに堀尾吉晴に関する授業の依頼があり、実施することができた。出張授業の際、資料館の宣伝も行っているが、近年は授業後、家族とともに資料館に来館する園児及び児童が増え、自分たちが覚えた事柄を家族に紹介する場面が見受けられる。昨年度述べた保育園における活動内容が小学校高学年になっても残っていたことに加え、本事業における成果として挙げられる。

次年度以降も各団体との連携を深めるため、活動を支援するメニューを考えていきたい。